



奉仕団とやま

発行

赤十字奉仕団
富山県支部委員会富山市飯野26-1
日本赤十字社富山県支部内
電話 (076) 451-7878

年1回発行

赤十字奉仕団の皆様には、日頃から赤十字の活動に深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

地域奉仕団、青年奉仕団、特殊奉仕団の皆様には、災害救護訓練、在宅ひとり暮らし高齢者訪問をはじめ、点訳や福祉施設訪問、病院ボランティア、献血の

人道奉仕団の皆様とともに

日本赤十字社富山県支部
事務局長

布野 浩久

推進等、地域に根ざした活動や特殊技能を生かした活動などに積極的に取り組んでいただくとともに、会員の増強と社員の募集に格段のご尽力を賜り、赤十字の

基盤を力強く支えていただいております。ここに、改めて深く敬意を表し感謝申しあげます。

さて、令和6年能登半島地震から1年2か月が経過しました。富山県においても観測史上初めて震度5強を記録する大地震となり、県内各地で、人的被害のほか、液状化現象等により多くの住宅が被害を受けました。

よる避難所支援などを行いました。これらの自然災害には多くの赤十字奉仕団の皆様も活動を展開し、まさに赤十字の総合力が実践されたものと感じております。

今年は、阪神・淡路大震災から、そして「ボランティア元年」から30年となります。災害への対応力を高めるため、富山県支部では、救護員のさらなる実践力の向上や赤十字防災セミナーを推進しています。また、本社が先月発行した赤十字ボランティアのための情報誌「RCV」には、本県が毎年実施する支部・施設合同災害救護訓練で、およそ40年以上も前から県内奉仕団が持ち回りで炊き出しをする

全国的にもあまり例のない取組みが紹介され、県内奉仕団の活動が全国に発信されました。

人口減少や少子高齢化の急速な進展、地球温暖化など社会環境が大きく変化するなか、奉仕団につきましても、団員の減少・高齢化、ボランティア活動の多極化などの課題に加え、災害時の活動や地域包括ケアシステムへの参画など活動領域の拡大も求められています。

これらの課題は、決して簡単に解決できるものではありませんが、赤十字奉仕団には、「人道と博愛」の理念とそれに基づく長年の活動によ

り築き上げられた地域の信頼など他のボランティア団体にはない強みがあります。

富山県支部は今年、創立136年を迎えます。「苦しんでいる人たちを救いたい」という思いを託されている赤十字の組織の中でも、奉仕団の皆様は、意思と行動力、自発性と主体性を持つ、赤十字の顔そのものであります。皆様の元氣と明るさをいただきながら、奉仕団の皆様とともに赤十字事業のさらなる伸展に誠心誠意努力をしてまいります。

日本赤十字社は、1877（明治10）年に佐野常民が設立した「博愛社」を前身として、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命のもと、2年後の2027（令和9）年に創立150周年を迎えます。そうしたなか、来月13日から開催される大阪・関西万博で、日本赤十字社は「国際赤十字・赤新月運動館」を出展します。1867年のパリ万博は、佐野常民が赤十字の展示を見て、初めて赤十字と出会った瞬間であり、多くの皆様に赤十字の理念を知っていただく貴重な機会となります。ぜひ多くの方のご来場を期待しています。

引き続き、日本赤十字社の礎を築いた先人たちの思い、創立理念を実現するための努力を重ねるとともに、赤十字に寄せられる厚い信頼を改めて胸に刻み、この信頼を次代につないでいきたいと存じます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

令和7年度富山県赤十字奉仕団事業計画

4月	赤十字奉仕団富山県支部委員会（富山市）
5月	赤十字運動月間 全国赤十字大会（東京都） 在宅ひとり暮らし高齢者訪問（県内各地） 赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会・研修部会（県支部）
6月	赤十字奉仕団研修会（富山市、魚津市） 赤十字奉仕団中央委員会（本社） 赤十字奉仕団研修会（高岡市、砺波市） 赤十字奉仕団支部担当者研修会（本社） 支部施設合同災害救護訓練（富山市） 第3B青年赤十字奉仕団代表者及び担当者会議（富山県） 愛の血液助け合い運動月間 赤十字ボランティアリーダー研修会（東京都） Action 防災・減災
7月	
8月	
9月	第3B赤十字奉仕団委員長並びに担当者会議（福井県） 赤十字防災ボランティアリーダー養成研修会（本社） 赤十字奉仕団研修旅行（国内） 赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会（県支部） 赤十字防災教育事業指導者養成研修（富山市、高岡市） 赤十字奉仕団委員長会議（富山市） NHK海外たすけあい
10月	赤十字奉仕団とやま編集委員会（県支部） 赤十字奉仕団支部指導講師研修会（本社） Action 防災・減災
11月	赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会（県支部） 赤十字奉仕団とやま編集委員会（県支部） 赤十字奉仕団とやま（第41号）発行
12月	赤十字奉仕団とやま（第41号）発行
3月	赤十字奉仕団とやま（第41号）発行

*第3B（第3ブロック…富山・石川・福井・岐阜・長野・愛知・静岡・三重 8県で構成）

赤十字奉仕団結成状況

（令和6年3月31日現在）

全 国	地域赤十字奉仕団	2,068団	785,324人
	青年赤十字奉仕団	148団	5,277人
	特殊赤十字奉仕団	615団	27,268人
	計	2,831団	817,869人
富山県	地域赤十字奉仕団	44団	2,878人
	青年赤十字奉仕団	1団	17人
	特殊赤十字奉仕団	6団	143人
	計	51団	3,038人

令和6年度
富山県赤十字奉仕団研修会

7月23日、サンフォルテで研修会を開催し、元日に発生した能登半島地震災害を契機とした防災意識の向上を目的に、日本赤十字社事業局 救護・福祉部 中村 秀徳 防災業務課長にご講演をいただきました。

■能登半島地震における対応

石川県支部へ派遣された1月9

日当時は、被害状況や道路状況がまだよく分かっていなかったもので、地元の方と話し合いながらどこが通れてどこが通れないかを図に落とし、どこに救護班を何班派遣して何日間活動してもらうかコーディネーターの先生と相談しながら、ライン表を作って途切れなく活動できるようにしました。また、本社と支部は、それぞれ抱えている事情が違うため、そこでの摩擦を軽減するためのリエゾン（仲介・橋渡し）としての活動をやってきました。たとえば「これ支部の局長に言ってほしいけど、直接言うとニュアンスが伝わらないから頼むよ」とか、その逆もありました。一番よくやったのは、電話・FAXの対応。ほぼ一日、何件だったか分からないくらいほとんどの電話を取りました。お叱りの言葉や現場の声もいただいたので非常に勉強になりました。

富山県の奉仕団は1月5日から高岡と氷見で炊き出し、義援金の募集を行ったと聞いております。なかなか活動でできなかったと伺いましたが、どちらも非常に素晴らしい活動とっております。できる人が、できるときに、できる活動を実施することで、助かる方が大勢います。

■日本赤十字社防災教育事業について

主に地域住民向けに行っている防災教育は、地域住民自らが災害に対する罹災に伴い心身の苦痛を軽減することを目的としています。また、目標として①防災・減災に関する知識、意識・技術の普及向上②災害時の応急対応を行うリーダー層の育成③地域コミュニティの形成への寄与を掲げています。

これまで防災教育で取り扱ってきたカリキュラムは難解で少し時間も長かったので、まずは分かりやすい自分自身の身の回り、家の中の安全対策をやってみましょうということと、いくつか追加したうちの1つが『おうちのキケン』です。地震に対する知識を身に付けるとともに、身の回りの4つのキケンについて考えるワークを通して、気づきを得る。さらに、家庭に持ち帰って共有してもらうことで、家族全体の行動変容を促すことを目的としています。

■青少年赤十字について

『青少年赤十字』は、3つの実践目標「健康・安全」「奉仕活動」「国際理解と親善」と、3つの態度目標「気づき、考え、実行する」を掲げ、小・中・高等学校を中心に活動いただいております。富山県では小・中はほぼ100

%、高校は半数の学校が登録・加盟している。と伺っています。「誰の心の中にもある、本来ある優しさや思いやりの心を引き出して主体的に行動できる子供を育てる」。子供たちがこの赤十字の活動を行い、発信することで人道の輪の拡大につながっていくことが期待されています。



■内部連携による活動事例について

福井県では、地域奉仕団が市の防災士会と連携して、青少年赤十字加盟校の中学生を対象に救急法等の防災講習を実施。愛媛県では、地域奉仕団が青少年赤十字加盟校に行き、交流も兼ねて海岸や運動場の清掃を子供たちと一緒にしたり、炊き出しや応急手当について教えています。大分県で毎年実施している「夏休み親子防災セミナー」では、職員・賛助奉仕団・地域奉仕団・青年奉仕団、それぞれが役割分担をし、一日のカリキュラムを実施。私の出身である長野県では、県内を4か所に分けて、それぞれの地域に所属している奉仕団のメンバーが、その地

域で行う防災セミナーについて指導することになっています。

■終わりに

「できる人が、できるときに、できる活動を」是非平時にもやっていたきたい。平時のひとつとして、まず防災セミナーを受講してみませんか？防災に関する知識、意識、技術を学んでいただいたあとに、もし可能であれば、防災セミナーの指導者になりませんか？まずは皆さんが受講して、地域に帰って、周りの人も受講するような仕組みを皆さんで作ってもらう。その中で、ご自身も含めて、指導者になってもっと広めていこうか、というふうになっていけばいいのかなと思います。指導者の資格を取り、自治会や町内会、学校に出向くことで、防災セミナーを通じていろんな関わりがもっと持ててくれることが期待されます。是非取り入れていただければと思います。

参加者の感想

奉仕団研修会に参加して

白菊赤十字奉仕団

委員長 中村ひとみ

令和6年度の研修会に参加をして赤十字ボランティアとしての自

覚を持ち、意識の高揚を図る。活動するために必要な知識・技術を身につける。

能登半島地震災害が起きた事もあり災害活動の話しや映像を見た時には災害がどれだけの人々を苦しめ助けを求めているのか、また、赤十字の活動に感動をした研修会でした。

私達の奉仕団は平均年齢が徐々に高くなり活動も限られて来ていますので年齢に応じた活動をしていきたいと思っています。

午後からのグループワークでは最初はとても緊張していましたが、他の奉仕団との意見交換などをして、活動の悩みや団員のコミュニケーションをどのようにしているのか等々を笑いなど交えながら話し合いをして、後半はいつの間にか時間が無くなってしまいました。

グループワークで他の奉仕団との意見交換は大切だと思います。顔を見ながら想いを話す事は大事ですね。とても親近感が湧き研修会に参加をしてとても良かったと思いました。



活動推進奉仕団報告

思いやりの コミュニケーション中田

中田赤十字奉仕団

委員長 高 桑 恭 子

この度、県支部より「活動推進奉仕団」という事で白羽の矢が、我が中田赤十字奉仕団に立ちました。さて、何を成すべきか!!と役員で話し合いました。

毎年の県奉仕団の「6つの統一活動」は、しっかり果たしております。プラス「地域のニーズに合わせた活動を行う」と掲げておりましたが、近年のコロナ禍の影響で、地域の奉仕は出来ていませんでした。令和5年5月に5類感染症に移行され、行動しやすくなったのをきっかけに、これからは活動（施設訪問）が出来ます。丁度良いタイミングでした。

さて、中田地区は庄川のそばの雄大な自然に囲まれた土地に、施設が多く存在しております。障害者施設、老人介護施設が有り、ボランティア活動を受け入れて頂けるかを交渉しました。



老人施設「だいが苑中田館」様との話し合いがとおり、月に一度で5ヶ月間、活動させて頂く事となりました。

内容は、フラワーアレンジメント・紙芝居・シャンソン歌謡ショー・簡単なゲーム・あしつきカルタと5ヶ月で5項目実施しました。この施設には、入所者と通所者がおられて、それぞれ別室のため、奉仕団の人数も5人から7人位で通算すると27人が活動しました。

団員はわずか35人と少ないのですが、令和6年1月の能登半島地震の募金活動は、1月、3月、12月と3回行いました。

その他、5月のキャンペーン、ひとりくらし高齢者訪問、献血呼びかけ、炊き出し訓練4回とみんな高齢ながら頑張っております。

今後、若い団員の加入を願いながら、団員心を一つにして、笑顔あふれるボランティア奉仕に務めて行きます。

ひとりくらし高齢者宅慰問 —小学生30人とともに—

舟橋村赤十字奉仕団

委員長 老 田 ひさ子

当奉仕団は、令和5年に結成40周年をむかえ、微力ながら地域に根差した活動を続けています。その活動のひとつである「ひとりくらし高齢者宅慰問」を11月に行いま

した。この慰

問は、村唯一

の舟橋小学校

6年生児童と

合同で、慰問

するのが慣例

となっていま

す。今年は、

団員10名と6

年生児童30名

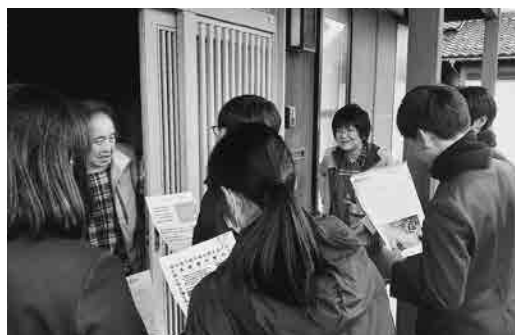
が5班に分か

れ、10名のひ

とりにくらし

高齢者宅に

徒歩で向か



6年生は、学校での日頃の活動を生き生きと報告し、特に、小学校で長年取り組んでいる「サケ・マス」稚魚を放流し継続調査している様子を写真等で説明しました。これからも身近にある川、自然を大事にしていくことを誓うとともに元気で長生きしてくださいと手紙を渡しました。

一方団員は、健康状態や生活状況をお聞きし、寒い冬を乗り切ってほしいと「保温カイロ」を、お渡ししました。日頃近隣に住んでいながら、直接対面する機会が少ない中、元気な顔を拝見し安心するとともに、いつでも私たち団員は寄り添っていますとお伝えできるいい機会となりました。

高齢者の方々と6年生の満面の笑みの中で終えたこの合同慰問、これからも継続していかれたと思います。

JRC(青少年赤十字)と 防災教育を学ぶ

八尾町赤十字奉仕団

委員長 岡崎 智子

本社では昨年・今年と赤十字奉仕団中央委員会において防災セミナーの時間がありました。そこで、今年度の支部でのリーダー研修会では、本社の中村課長様より防災について直接ご指導をいただきました。

富山は立山のおかげで災害も少なく住みよい所であると、多くの県民が思っていました。しかしながら、昨年元日の能登半島地震によって、富山県も大きな被害を受けました。いつ、どこで、このような災害にあうかわからないことを体験することとなり、日頃から災害に備え、自治会や自主防災組織、JRCなどと手を携え、地域への普及活動を行い、つながりを作ることが大切と痛感いたしました。

八尾奉仕団では、12年前より小学校3校において親子活動として防災をテーマに、炊き出しや防災用品の活用、心肺蘇生に取り組ん



でいます。また、中学校においても今年は、災害時自分たちに何ができるか学びを深め、炊き出しや救急法に取り組みました。

毎年、各奉仕団で防災について学んでいるところですが、今年は能登における被災状況や活動についての講話を支部職員から受け、大きな感動がありました。いくつかの校下においても講話をいただき好評を得ています。

来年からは、地域住民向けに奉仕団で防災セミナーを開催したいと考えています。セミナーの開催に向け、県支部では奉仕団員の指導者も育成しています(令和6年

度は17名養成)。

新型コロナウイルス感染症により、奉仕団の活動が停止したことから、団員の退団と高齢化が進み、寂しい状況です。次の世代の育成が大きな仕事です。この防災の視点をきっかけに、団員勧誘に努めることを願っております。



敦賀日帰り旅行に参加して

射水市大江赤十字奉仕団

委員長 岩 脇 明 美

10月8日(火曜)新高岡駅8時30分、北陸新幹線が音もなくスーと福井県敦賀駅に向けて出発。初めて敦賀

観光が始まりました。敦賀赤レンガ倉庫、1

905年に石油貯蔵庫として建設されたレン

ガ建築物



で、北棟・南棟・煉瓦塀が国の登録有形文化財に登録されています。

人道の港敦賀ムゼウム、気比神宮、気比の松原をはじめとした美しい海や山の景色が楽しめる「赤レンガ倉庫」やレトロな街並みの「敦賀博物館通り」などの散策スポットがあります。「人道の港敦賀ムゼウム」では、杉原千畝が福井出身であることを知りました。

更に、難民と敦賀市民の当時の交流や心温まるエピソードを知ることができました。日本三大松原の一つ「気比の松原」は、国指定の名勝地で、15分の散策コースで記念撮影(美人は美しく、それなりはそれなりに) 楽しい研修旅行は敦賀駅で両手にいっぱいのお土産を買って帰路につきました。

令和7年度の研修旅行ご案内

詳細な日程・募集は、各団委員長に改めてお知らせします。

◇実施予定 9月(1泊2日)

◇募集人数 40名程度

◇行き先 関西方面

◇内容 (貸切バス利用)

大阪・関西万博など

《我が団の紹介》

がんばろう！伏木！

～ここを一つに力を合わせて～

伏木赤十字奉仕団

委員長 針山 健史

伏木赤十字奉仕団は昭和51年に創設され、現在は6つの分団（中部、東部、西部、南部、北部、太田）に分かれて計89名（女性67名、男性22名）の団員が活動しています。

団員の高齢化や担い手確保という課題を抱えながらも「ひとりくらし高齢者との集い」や地域行事への救護班派遣、除草奉仕、募金活動など団員同士の交流や研鑽を積み機会も含め年間を通じて積極的な活動に努めています。



令和6年元日に発生した能登半島地震で

私たちの活動拠点である伏木地区は極めて甚大な被害を受けました。町の姿はもちろん、多くの方々の生活や生業、地域活動等の状況は一変。1年以上を経過した現在でも道路や水道などのインフラ復旧はままならず、空き地空き家は日々増えて住民が地域外に転出しています。私たちの奉仕団でも多くの仲間が離れ、組織や活動内容の維持存続が懸念されています。

一方で大変に厳しい環境にありながらも「元氣な伏木の町を取り戻す！」ことに地域の誰もが諦めていません。これまで継続してきた活動に加え、復旧復興に向けて奉仕団としてできる限りの被災地、被災者に寄り添った奉仕活動を続けていきたいと考えています。

楽しみながらの奉仕活動

朝日町赤十字奉仕団

委員長 井口 一美

我が団は1976年に結成され、10地区・167名の団員で構成されています。活動内容は、県の統一活動に加え朝日町の独自活動に取り組んでいます。

昨年おきた能登半島地震を契機に災害への備えに対する機運が高まり、9月29日に朝日町において大規模な防災訓練が実施されました。当奉仕団は炊き出し救援活動に



において300食のカレーを提供し、災害がおきた時への普段からの備えの大切さを痛感しました。

独自活動については、ひとりくらし高齢者宅に寿司弁当などを持参し訪問する地域見守り配食サービスを実施している他、会員研修として救命救急に関する学習会や富山県防災センターの見学・体験等を実施し研鑽しています。朝日ふくしフェスティバルでは、自宅に備える防災用品の展示を行いました。

会のモットーは「誰でもいつでもできる活動を通じて、地域みなさんに朝日町に住んでいて良かったと感じてもらえること。」です。

活動の魅力は、地域貢献をしながら仲間づくりができ、日々に充実感を得られること。特別なことはしませんが、細く長く活動が続けられればありがたいと思います。

表彰を受けられた方々おめでとうございます。今後益々のご活躍をご期待申し上げます。

業務功勞

● ボランティア活動推進富山県民会議会長

表彰

【個人】

田辺 恵子(高岡中央赤十字奉仕団) (高岡市)

中村ひとみ(白菊赤十字奉仕団) (富山市)

深川 紀子(上市町赤十字奉仕団) (上市町)

【団体】

新庄北赤十字奉仕団(富山市)

● 金色有功章(継続20年)

【奉仕団】

窪赤十字奉仕団(氷見市)

十二町赤十字奉仕団(氷見市) (令和5年度受章)

【奉仕団委員長】

北田 祥子(南砺市上平赤十字奉仕団)

森 節子(窪赤十字奉仕団) (氷見市)

● 金杵感謝状(継続10年)

【奉仕団】

新庄北赤十字奉仕団(富山市)

● 銀杵感謝状(継続5年)

【奉仕団委員長】

井口 一美(朝日町赤十字奉仕団)

植野 直美(富山赤十字点訳奉仕団)

平岡 香代(愛五赤十字奉仕団) (富山市)

山口 康司(富山県無線赤十字奉仕団)

社資功勞

● 日本赤十字社社長感謝状

小西 広一(新庄北赤十字奉仕団) (富山市)

田辺 恵子(高岡中央赤十字奉仕団) (高岡市)

● 銀色有功章

橋本 佳大(伏木赤十字奉仕団)

※社資功勞につきましては、赤十字奉仕団員並びに奉仕団幹旋の受章者のうち、ご承諾をいただいた方のみ掲載しております。

(R6. 2. 1(R7. 1. 31)

(敬称略) (五十音順)

令和7年度に

周年記念を迎える奉仕団

50周年

清水町赤十字奉仕団

(昭和50年6月24日設立)

40周年

南砺市城端赤十字奉仕団

(昭和60年3月27日設立)

ともしび赤十字奉仕団

(昭和60年3月30日設立)

ボランティア保険

日赤県支部が加入しているボランティア保険について、お知らせします。

これらはすべて、日本国内における奉仕団活動中(所属団及び県支部が認めるもので、会議や研修会も含む)の事故に限られます。不慮の事故の際は、各団委員長を通じて、市町村の日赤担当者と県支部に報告して下さい。(生じた事由によっては、保険金をお支払いできない場合もあります。)

◆他者への賠償金……支払限度額 5億円
◆保険金が支払われる主な場合

(1) 次のいずれかに該当する事由による他人の身体の障害または財物の損壊

・ ボランティア活動中に発生した偶然な事由

・ ボランティア活動中に伴って提供した財物に起因する偶然な事由

・ ボランティア活動の結果に起因する偶然な事由

(2) ボランティア活動に伴って占有、使用または管理する受託物の偶然な事由による損壊、紛失または窃取(ただし、受託物について正当な権利を有する物に対して負担する損害賠償責任に限りません)

■ 自身の傷害

： 死亡・後遺障害 12、540千円

： 入院保険金日額 6、300円

： 通院保険金日額 4、200円

◆ 保険金が支払われる主な場合

(1) 死亡保険金
事故によるケガのため、事故の発生の日からその日を含めて180日以内に死亡された場合

(2) 後遺障害保険金
事故によるケガのため、事故の発生の日からその日を含めて180日以内に約款所定の後遺障害が発生した場合

(3) 入院保険金
事故によるケガの治療のため、事故の発生のその日から180日以内に入院された場合

(4) 通院保険金
事故によるケガの治療のため、事故の発生のその日から180日以内に通院(往診を含む)された場合

令和6年度 富山県支部扱い義援金・救援金

※金額及び件数は1月31日現在

国内	令和6年能登半島地震災害義援金(被災県全体)	939件	73,022,295円
	令和6年能登半島地震災害義援金(富山県)	1,329件	1,239,093,471円
	令和6年7月25日からの大雨災害義援金	24件	512,026円
	令和6年9月能登半島大雨災害義援金	147件	8,305,824円
	令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	2件	108,234円
海外	中東人道危機救援金	1件	10,000円
	ウクライナ人道危機救援金	9件	345,339円
	イスラエル・ガザ人道危機救援金	7件	57,545円
	2024年台湾東部沖地震救援金	25件	629,405円
	レバノン人道危機救援金	2件	74,889円
	無指定救援金	1件	30,000円
	令和6年度NHK海外たすけあい救援金 (郵便振替を利用され、日赤本社に直接送金された分を含む)	928件	11,461,828円

合計 3,414件 1,333,650,856円

2025年大阪・関西万博へ 赤十字出展

2025年4月13日から10月13日までの184日間にわたり、大阪・夢洲を会場に開催される大阪・関西万博で、赤十字は「国際赤十字・赤新月運動館」としてパビリオンを出展します。「人間を救うのは、人間だ。～The Power of Humanity～」をコンセプトに、世界の人道危機、そこに立ち向かい、立ち上がる人々のヒューマンストーリーを通して赤十字の使命と人間のチカラを感じるパビリオンです。



令和7年度の研修旅行の旅程にも組み込んでいますので、ふるってご参加ください！

日本赤十字社富山県支部
ホームページはこちら



編集委員
中西 順子
中村 ひとみ
針山 健史
上島 いづみ
長谷 芳子

山口 康司
清水 晴乃
井口 美美
岩脇 明美

「奉仕団とやま」第40号を発行にあたり、ご寄稿いただいた方々に心より感謝とお礼を申し上げます。
(富山市 山口記)

年度末を迎えるにあたり、このたび新たに就任された布野事務局長にご挨拶をいただきました。また、令和7年度に研修旅行の予定先である「大阪・関西万博」の紹介も掲載しています。海外パビリオンでは国際赤十字・赤新月運動館も出展されるそうです。思い起こせば1970年3月大阪千里丘陵で「人類の進歩と調和」をテーマに掲げた日本万国博覧会が開幕し、400万人に及ぶ入場者数で未来都市を想像させる新鮮な驚きと感動の連続でした。世界情勢に目を向けると格段に発展と進歩はしたが調和には程遠く、現実にはなっていないように感じます。



くろのじゅん